

# 白岡ニュータウン自治会だより

## 11月晩秋号

平成14年11月11日

白岡ニュータウン自治会発行  
会長 岡田光旦

挨拶と花と緑の  
明るいニュータウン

### <私の視点> 『こころ豊かなコミュニティをめざして』

黒澤英典

都会の喧騒をのがれて1時間、駅に降り立つとさわやかな風が流れる。とりわけこの季節の駅舎からの関東平野を囲む山々の眺望は、こころに限りない夢と潤いを与えてくれる。南は丹沢の塔ガ岳から富士山、そして秩父山塊・両神山、妙義・浅間、谷川連峰、赤城山、男体山、那須の山々、さらによく晴れた早朝には八溝山系から筑波山まで望むことができる。春には揚げ雲雀が鳴き、夏には雷雲、夕映えの美しいのが、この季節であり、四季それぞれに趣がある。また、駅前通りの榎並木のひごとの変化も心たのしい。

この新しい街に住んで10年、20世紀から21世紀への激動の時期を、この街で過ごしたことを心のよるこびとしたい。

梨畑を中心にした田園地帯が新興住宅地にかわり、全国に故郷をもつ人々が、ここに住むようになってから15年、人間の成長発達からみれば、青年期である。未来にコミュニティとして《ロマン》を秘めている街である。

この街は、生活者にとって《住みやすい街づくり》、《地域に根ざした家並み》、カラーコーディネートによるシックな色調で統一された家々、いたづらに派手さを追求しない、そして、10～20年たっても古さを感じさせない家並みがつくられたのである。しかし、どんなすばらしい街並であっても、そこに住む人々の在り方しだいで、よくもなり悪くもなるものである。出来たときには美しい街並みが数年後に訪れたときに、すっかり期待を裏切られたこともしばしばあった。

私たちのこの街は、年を経るごとに木立が美しく成長するように、住みやすい美しい街に成長している。どんな整った街並みでも、それを維持して行くためには、それを支える人々の耐えまざるひたむきな努力のあることを深く感謝しつつ、夕闇近い駅前通りの色づき始めた榎並木を歩きながら思う昨今である。

この10年来、ゴミだし日の早朝雨の日も風の日も、空き缶、タバコの吸い殻、ゴミくづなどを人知れず黙々と拾う人、犬の散歩をさせながら大きなゴミ袋をもって無残に捨てられたゴミをさりげなく拾っている人、この街ならでの忙しない早朝の光景である。

また、《花と緑の会》方々の花一杯運動、《悠友会》の皆さんと《白岡高校》の生徒さんとのゴミゼロ運動、さらに《白岡東小学校》での子どもたちとの草取り、《おばあちゃんの手芸教室》などの交流はここに住む方々の意識の高さを感じさせられる。

この街を行政に頼らず、ここに住む人達がみんなで協力しあって、《挨拶と花と緑の明るいニュータウン》をモットーにして、日々活動して下さっているのが《白岡ニュータウン自治会》の皆さんである。とりわけ、歴代の会長さんの見識ある指導力で《明るく心豊かに安心して暮らせる街づくり》をめざして様々な活動が企画され実行されている。本紙（9月号）に高校生の新井佳奈子さんの『白岡ニュータウンに期待すること……』を拝見すると、その寄稿文のなかで新井さんは「もし私が、将来どこか別の場所で暮らしていたとしても、《私の実家は白岡町の白岡ニュータウンです》と胸をはって、いえるような街づくりを期待します」と、新井さんのような若い人たちの期待を裏切らないように、この街に住む一人ひとりが、この街にすむことを喜びとし誇りとしたいものである。

ますます、21世紀は国際化・情報化が進む、ここで育った子どもたちが、世界のどこかで暮らしていても、《白岡ニュータウン》を《こころのふるさと》として、誇れるような《心豊かなコミュニティ》を形成して行きたいものである。





## 『防災訓練の総括と今後の取り組みに向けて』

(災害時に助け会える環境づくり)

総合防災訓練総括責任者 副会長 飯塚 牧 三  
防災・防犯・交通部一同

今年で 7 回目を迎えた「防災訓練」は単に実施するだけでなく実戦に則した「総合防災訓練」へとレベルアップを図った訓練も、やっと手応えを感じるようになってきました。

心配された天候も防災訓練に味方したのか、雨にあうことなく無事に終了できました。そして何よりも感動したことは多くの子供たちが参加してくれたことです。

参加されました多くの皆さんに主催者を代表して心からお礼を申し上げます。

今年の訓練は、次のような大震災を想定しておこないました。

### 【訓練の想定】

午前 5 時 12 分、関東地方を中心に大地震が起こり、この地震により家屋の倒壊及び焼失等の被害が発生、また交通機関、電話、水道等の施設が相当な被害を受け、負傷者も多数発生、住民が懸命に初期消火活動を行っている。

白岡ニュータウン自主防災会は消火活動、負傷者の救出、被災者の避難と安全確保に加えて、食料の補給に緊急を要する事態となったため、災害対策本部を(南)カジャ裏、(株)住まい管理の駐車場に設置した。同時に「白岡ニュータウン自主防災会組織」により各班員の緊急動員、白岡町役場・白岡町消防署・久喜警察署等に出動要請、住民と一体となった防災活動を実施する。

#### 1. 訓練の目的

訓練の目的は何と言っても「自分たちの街は自分たちで守る」ということにあります。私たちは一瞬にして街が破壊された阪神・淡路大震災の教訓から、防災の視点を街づくりに活かすための訓練として取り組んでいます。大震災が起これば、行政がやってくれるからといった安易な気持ちを払拭し、会員の皆さんが実践を体験し震災を恐れるのではなく迎え打つ体制づくりとして行いました。

#### 2. 気軽に参加できる防災訓練

気軽に皆さんが参加できるように子供たちには防災訓練を想定したポスター作りに、悠々会の皆さんには避難者役に、被災者にはルネ・グランテラスの方をお願いをしました。そんな関係で今年は、子供たちの参加が多く真剣に取り組む姿や、訓練を和ませる雰囲気(消防署員によるケガの応急手当の場面では重症を負った場合、病院に行ってもらいますとのお話)に子供から「救急車を呼ぶんでしょ」と言った言葉が出るに会場から笑いが起こるなど、開催できて良かったと思えました。

#### 3. 防災訓練で学んだ成果を

参加された皆さんにお願いしたいことは、この防災訓練で学んだ成果を自分一人のものとしてしまっておくのではなく地域のなかで活かして欲しい、広めて欲しいと思います。防災技術、防災知識の共有を是非お願いします。このような訓練に参加し、学んでおくことが大震災の時に冷静に対応できることにつながると思います。

#### 4. 参加指導又は協力団体

防災訓練に参加され指導して頂いた白岡町役場・白岡町消防署、久喜警察署の皆さんを始め、協力して頂いた白岡ガス、(株)住い、ポンプ・ドゥ・ボンボンには心から感謝します。

※ 白岡ニュータウン自主防災会組織とは

大震災が発生した場合、自治会の会長を本部長とし副会長を副本部長、そして職務分担を伝達情報班、消火班、救出救護班、避難誘導班、給食・応急給水班の 5 班に分けて防災活動を行なう組織です。現在の人員は 82 名(全員が役員)

大震災が発生すると二丁目集会所に防災本部を設置します。

## 【防災訓練でのアンケート集計結果について】

伝達・情報班の皆さんが地域のなかに入って、皆さんの声を聞いたアンケート調査は下記のとおりです。

1. 防災訓練を何によって知りましたか
  - ①自治会ニュース 28名
  - ②防災ポスター 8名
  - ③防災無線 2名
  - ④2チャンネル 2名
2. 防災無線の放送について
  - ①良く聞こえた 25名
  - ②聞き取れなかった 12名
  - ③気がつかなかった 1名
3. 防災訓練に参加したことがありますか
  - ①ある 11名
  - ②ない 27名
4. 防災訓練の必要性について
  - ①実施したほうが良い 36名
  - ②実施する必要はない 1名
  - ③その他 なし
5. 犬、猫等のペットがいる家庭に避難する場合のことを考えていますか
  - ①考えている 7名
  - ②考えていない 8名

以上ですが、防災訓練のアンケートから感じたことは、多くの皆さんが大震災が起こった場合のことを考えると防災訓練の必要は認めているものの訓練は他人任せになっていることが伺われます。

ゴミ・ゼロ運動には隣り近所の目に気を使って参加するが、防災訓練になると参加を躊躇しているように思います。

また、ペットの問題については白岡町役場でも重要なこととして取り組んで行かなければならないと考えているものの、避難所に連れて行くことはできないため、放し飼いにならざるをえないとのことです。

その他、皆さんから寄せられた意見は今後の「総合防災訓練」に活かして行きたいと考えておりますので宜しくお願いします。

## “悠友会として『防災訓練』に参加して”

悠友会会長 赤津 允 勇

10月20日の自治会防災訓練に悠友会として参加しました。会員25名の参加で白岡東小学校正門前に10時に集合し、防災本部の誘導で訓練の場所まで歩行することが第一の訓練で、その後は一般の方と一緒に訓練を行いました。順をおって感想を述べてみますと、東小学校から訓練場所までの誘導歩行では、災害時の道路を想定して下さい、「電線が切れてたれさがり、家が倒れている」ので慎重に行動するように、との指示であったが、そのことを想定するも実感がなく、道路には自動車が走ってくるので、横断では車に注意となった。誘導者の方の訓練が主体なのか？なんて考えながら二列縦隊で歩行しました。

訓練地に到着して、本部誘導者の報告、報告を受け入れる側の対応には感心。軍隊式の直立しての挙手敬礼、大声での報告、と受報、を見て常日頃は顔見知りの人の改まった行動には、気恥ずかしい気持ちでほほ笑んでいたのは不謹慎であつたか？ 但し情報を伝達する方法としては、あいまいにならず確実な方法であると改めて見直しました。

一般訓練の中では、特に応急手当についての消防署からの説明、方法が参考になりました。身体の血液生理から始まり、出血の手当方法は災害時のみならず一般通常の事故等にも有効であると思います。

最後には炊出しの豚汁と、まぜご飯を頂き舌ずつみを打ちました。防災訓練と言うと厳しいものかと思っておりましたが全体に楽しいムードでいっぱい半日でした。参加者の方を見ますと、高齢者と子供が多く、中年令の方が少ない、一番多い年齢層で一番活躍される方の数多い参加があればなあーとの思いでした。

災害訓練について私の個人的希望を申し上げますと、今回の応急手当のような身近なものを今後も取り入れていただきたいと思います。今、思いつきますのは、

- 1) 家庭で天ぷらを揚げている時、鍋に火が入ったら、そばにある野菜を鍋に入ると火が消える。
  - 2) 石油ストーブが床に倒れて、燃え上がった時、バケツ一杯の水を上から直角にかけると、火は消える。
- などと言われているが、家庭では実際の訓練は出来ません。そんなものを取り入れて実習と訓練をしていただければと思います。

以上、訓練に参加しての感想です。



## 『総合防災訓練参加の感想』

2-15-12 広報部班長 早川卓良

伝達情報班、二班 3名は、防災訓練開始間もなく、10時7分に出動し、予定通り11時30分に、災害対策本部に戻った。

危惧された雨は降らず、訓練の環境としては物足りなかったかも知れないが、ハンドマイクの防災訓練参加呼び掛け、自治会員に対する防災に関するアンケートの実施は円滑に行うことが出来た。往来でのアンケート調査に対し、自治会員は十分協力的で、住民諸氏の防災意識の高さの一端を垣間見たかと思ひ、心強い次第であった。

日常生活の凡ゆることが防災活動の際現われるとするならば、ハンドマイクでの呼び掛けに就いては、カラオケなども嫌がらずにやっておくべきであったかと反省させられたりもする。又、必ずしも碁盤の目状になっていない町内の道路なので、担当地域を効率良く隈なく歩く為には、平素から自宅周辺を歩いておき、どの道が何処に通じているかを十分把握しておくことが必要であると感じた。緑道に就いては、道幅が狭く、樹木も植えてあるので、地震の際に樹木等が倒れたら通行困難にならないのだろうか、災害時に於ける緑道の役割は何かと一瞬考えたことであった。

防災訓練に参加して町内を歩いていると、普段とは違った思考回路が刺激されて歩く処は何れも哲学の道となって、昨日迄とは別の思いが浮かんで来るのであった。

伝達情報班としては、防災訓練会場に殆ど居なかった為、そこで何が行われていたのか全く関知し得ぬ状態であったが、防災訓練終了宣言後、給食班に作って戴いた豚汁、御飯を試食して、改めて防災訓練の一員だったのだ、治に居て乱を忘れてはいけないのだと自覚させられたことであった。



## 『総合防災訓練に参加して』

3-4-3 広報部班長 福田文子

10月20日(日)総合住宅販売お客様駐車場広場に於いて総合防災訓練が行われました。昨夜からの雨も上がり、当日は大勢の人々が参加しました。今年は「白岡ニュータウン自主防災組織」に基づき実施され、



白岡消防署の方々の指導のもと水消火器、粉末消火器の訓練、配られた三角巾を使って怪我をした時の応急処置の仕方等の訓練。消火器の取扱いの訓練に真剣な眼差しで頑張っていた子供さん達、きっと貴重な体験をした事と思います。消火器の有効は約5年、一度ご家庭の消火器を点検してみても如何でしょうか。日毎に寒くなってまいります、くれぐれも火の元に気をつけましょう。阪神・淡路大震災から10年、大惨事の記憶も薄れてきています。災害は忘れた頃に突然やってきます。備えあれば患なし。役員の方々、参加された皆様、大変お疲れ様でした。



盗難防止の為に、門灯は必ず点灯しましょう！！！！

## 《防犯コーナー》

## 【ひったくり事件が多発しています】

防犯・防災・交通担当 副会長 飯塚 牧 三

自転車とバイクの前かごにそのままバッグやカバンを入れて走っている人を見かけますが、これらの行為は非常に危険です。バッグやカバンを抜き取る犯罪が多く発生しており、生命の危険にさらされることにもなりますので注意して下さい。

特に年寄りの人、女性が標的になっているようです。また、銀行から出てきた人は、一番、狙いをつけられやすい人になりますから注意が必要です。犯行を犯そうとする者は狙いを定めるとすきを狙ってつけまわすそうです。ちょっとした油断が命とりにもなりますので「自分は大丈夫」だといった過信をもたないことが肝心です。これからは、街にジングルベルが鳴るようになってどうしても気持ちも弾みますし、気分も大きくなり自分を失いがちになります。

小さな試みで大切な財産を守ることができます。その例を紹介しますが、他に良い方法があったら教えて下さい。

1. 自転車やバイクの前かごに防犯ネットを付ける。(百円コーナーでも買えます)  
後ろから近づく、道を聞く、家を聞くことで目をそらさせ、ちょっとしたすきに抜き取り逃走するといった犯行が多いようです。まず、自転車やバイクが後ろからスピードを落として近づいて来たら注意して下さい。防犯ネットがついていない状態での盗難が多いようです。
  2. 防犯ネットがない場合の対策  
このような場合は、バッグやカバンの上に雑誌かスカーフ等、直接抜きとる事ができないよう工夫して下さい。但し、バッグの紐をハンドルに巻付ける等の行為は非常に危険です。犯人が抜き取って逃走する時にハンドルをとられ倒れてしまうからです。
  3. 歩行中はバッグやカバンは車道の反対側に持つか、肩にかけて下さい。  
自転車やバイク、自動車を使用しての犯行ですから、犯人は車道から狙いをつけます。自転車は歩道も走りますから怪しいと感じたらまず身構えることが必要です。
  4. 夜は明るい道、人通りの多い道を  
帰宅する時は、どうしても近道を通って帰りたくなりますが、できるだけ明るい道を選んで下さい。また、信頼できそうな人がいたらその人の後について歩くことも大切です。犯人は人通りの少ない場所や暗い場所に潜んでいることが多いことにも注目して下さい。
  5. 不幸にして被害を受けたら  
警察では直ちに 110 通報をして下さいとのこと。早期に通報することは、犯人が近くにいる可能性があること。第二の犯行を未然に防ぐことができることにあるようです。110 通報する際に必要なことは、犯人に関する情報を正しく伝えることにあるとの事です。気持ちを切り直し、車体のナンバー、色、車種、年齢、身長、服装など犯人の特徴をできるだけ正確に伝えることをお願いしたいとの事です。このことは、普段から自分で訓練しておいても良いと思います。
- 以上、お話をしましたが自分自身で考え行動することが何よりも重要です。そして、このことを心に止めて行動することが被害を防ぐことにもつながります。現代は何が起こっても不思議ではない状況です。くれぐれも自分の身の安全と盗難事故にあわない対策が必要です。

## 第二回目の「生け垣・庭木害虫駆除」について

衛生部理事 折本 勉

今回の「生け垣・庭木の害虫駆除」は、初日に雨に降られて順延となりましたが、その後は天候に恵まれ順調に終了することが出来ました。また、前回に比べて湿度も高くなく、消毒液が葉に付着しやすい状況下にあったせいか効果があったのかなと思います。多くの人から今回の消毒作業においては、好評でもありました。それと前回の問題点(アンケートの資料を踏まえて)となっていた事などを、事前に業者と話し合いを持ち改善していただくべきことを指示して、今回実施していただいた経緯があります。この「生け垣・庭木害虫駆除」消毒も、住戸全員の 100%実施が大きな目標ではありますが、今回の実績率は 652 戸/904 戸で 72.12%の実施結果でした。

この町のキャッチフレーズでもありますが、「緑のある町、新白岡」を実現させ、地球にやさしい環境造りに少しでも貢献すべき努力を全員で進めていきたいと思います。地球の温暖化、世界中の天候異変、地球の砂漠化等の原因は、いずれも人間が作り出したものでもあります。この地球上で毎年日本の四国と同じ面積の山林が消滅しているそうです。一刻も早くこの事に気づき、まず自分たちが出来る事から始める。これすなわち、我が庭先から、この一念を持って草木を愛して下さい。その為の消毒活動です。

次回からは更に多くの住戸の実施協力をお願いいたします。

## 《白岡東小コーナー》

## 白岡東小学校 “芸術鑑賞会” を開催して

白岡東小学校 大住 五月

体育館中に大きな太鼓の音が鳴り響いた。それまでのざわついた雰囲気、一瞬にしてピンと張りつめた空気が変わり、それと同時に子どもたちの表情もひきしまったように見えた。

秋の訪れを感じ始めた10月3日、地域の方々を招いての芸術鑑賞会が行われた。この芸術鑑賞会は毎年、「直接芸術に触れることにより、感動を味わうとともに、豊かな情感を養う」という目的のもと、行われている。

今年は「鼓粹」の方々に来ていただき、和太鼓の演奏と、しの笛や津軽三味線の音色を一緒に聞かせていただいた。一年生などは初めて見る楽器に目を奪われ、またその音の迫力に驚きを隠せないようだった。じっとステージを見つめ聞き入る子もいれば、リズムに合わせて体を動かしながら、楽しそうにしている子もいた。私自身、それぞれの太鼓の持つ音色が、一定のリズムに乗って

1つになると、それはまるでメロディを持った曲のように聞こえ、心底すばらしいと思った。大人がそう感じるのだから、素直な心をもつ純粋な子どもたちには、なお深い感動として心に残ったことだろう。

あとで子どもたちの感想を見てみると、こんなことを書いた子がいた。“日本のたいこって、あんなにりっぱだったんだなあ。”この言葉を見つけた瞬間、芸術鑑賞会を通して子どもたちに伝えたかったことは、伝わったと感じた。今年は和太鼓の演奏ということで、先にあげた目的の他に日本古来の伝統文化のよさも、子どもたちが感じ取ってくれることを願っていたからだ。やはり生で見たり聞いたりすることで、肌でその文化に触れることができるのは、何事にも変えがたいことである。

おうちの方や地域の方々と一緒に鑑賞できたことは、子どもたちにとってももう1つの喜びとなったことだろう。同じ空間で、同じ演奏を聞き、同じように得た感動を共有することができるからである。1つの芸術を通して、いろいろな会話が交わされたことを考えると、開催した私たちも温かい気持ちになる。

近年、モラルの低下が叫ばれて久しい。子どもたちの道徳性を養うことが、学校教育においてこれからは特に重要となる。心の教育は、すぐに結果がでるものではなく、長い時間を経てその成果が表れるものである。芸術の秋といわれるこの季節、毎年行われる芸術鑑賞会は、子どもたちの心を育てる欠かすことのできない行事であると思う。言葉ではなく、本物に触れる体感から学べるところに、この芸術鑑賞会は価値がある。

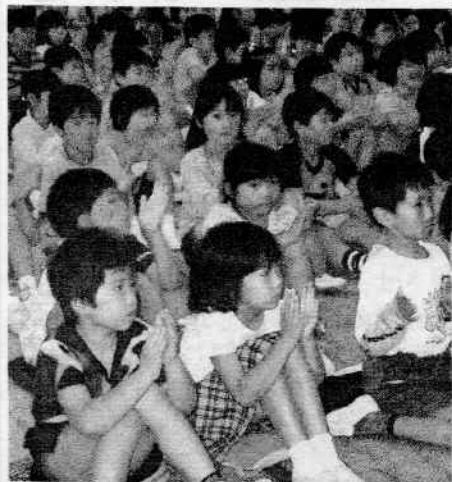
## “芸術鑑賞会” を終えて

民生・児童委員 福地 紀枝

酷暑という言葉があてはまる、暑い暑い夏も過ぎ、過ごしやすい秋日和となった。10月3日(木)、白岡東小体育館において、芸術鑑賞会、和太鼓(鼓粹)の演奏会が行われました。今回は白岡町社会福祉協議会白岡東支部として、社会福祉の充実を図る為、学校と共催という形で行われました。自治会の回覧、2c hで流れたこともあり大勢の会員の方々も体育館に足を運んでくださいました。自治会からは58名の方が出席、全体では保護者の方々も含めると150名以上の方々の出席があり、大盛況でした。

和太鼓(鼓粹)の演奏は素晴らしく、体育館に大人の背丈以上の大きな太鼓から、又小さな太鼓から、体中を突き抜ける様な、リズムあふれるバチの音が響き渡りました。私は一番後で聞いていたのですが、体育館全体がドンドンと震動する度に、埃がパラパラと落ちてくるのには苦笑してしまいました。

又“しの笛”も美しい音色で、大人の方々には古郷を思い起こさせる様に心に汲み入ったことでしょう。子供達のふれ合いコーナーも人気があり、大勢の子供達が太鼓の体験に手を挙げておりました。選ばれた子供達は一度でリズムを覚え、太鼓を打っておりました。子供達の中には、太鼓を打つ団員の方々の姿勢の良さがかっこ良かったと言う声もありました。可能性に満ちた子供達の体の中に、あの五感を震す太鼓の音は、きっといつまでも忘れられない音として残ってくれることでしょう。又大人の方々にはいろいろな憂いを吹き飛ばす様に爽快感を与えてくれた様で、皆いい笑顔で帰られました。団員の方々には前日は盛岡、宇都宮の公演を終えて来て下さったとのこと。すごいエネルギーですね。



## “芸術鑑賞会”に参加して

保護者 瀧上 真理子

去る10月3日(木)、白岡東小学校体育館で行われました芸術鑑賞会に保護者として参加させていただきました。

子どもが東小に入学して4年。芸術鑑賞会には毎年、欠かさずに足を運び、子どもたちと共に楽しませていただいております。今年は社協と共催となり、学区内全体に呼びかけが行われたため、一般参加者も格段に増え、演奏者にとってはよりやりがいのあるステージではなかったかと思えます。

『鼓粹』の和太鼓は、勇壮で力強く、かつ軽快さや華麗さも兼ね備えていました。その巧みなばちさばきは観るものの心を躍らせる魅力があり、まるで演奏者と一体化してしまったかのように、両手を高く揚げ、太鼓に合わせてリズムをとっている子どもも見受けられました。その様子を見て、「ここでの和太鼓との出会いがきっかけになり、将来、日本の伝統芸能を担うような若者に成長する子どもが出てくるとステキだな……。」などと考えていました。



若い頃、米国ミシガン州の地方都市に出張した際、仕事先の方のご家族に誘われ、週末の美術館を訪ねたことがありました。そこでは、一枚の大きな絵画の前で弦楽四重奏団が美しいメロディーを奏で、その周りを子どもあつちが取り囲むように腰掛けて心地よさそうに聞き入っていました。子どもの頃から、優れた芸術を身近に感じることができるようにと美術館と地域の音楽家たちが協力し、毎週、ボランティアで演奏会を開いているということでした。(もちろん入館無料でした。) こうした試みが、子どもたちを心豊かに育てていくのだらうと、とても感動したことを今でも覚えています。

この4年間に東小では『影絵』『African music』『Latin music』そして『和太鼓』の鑑賞会が行われ、いずれも芸術性の高い、すばらしいプログラムでした。今後も、このような様々な芸術に触れ、堪能する機会を作っていただきたいと思います。

## 『歳末警戒のお知らせと協力依頼について』

……街づくりの主役はあなたです……

防犯・防災・交通担当 副会長 飯塚 牧三

皆さんの手で「歳末警戒」を成功させよう。そして、安全と安心をスローガンに据えた街づくりも回を重ねるごとに参加者も多くなりつつあります。特に、昨年は子供達も大人の輪のなかに入って夜の街を点検して歩くなど微笑ましい姿もありました。ボランティアで参加される人もおりますが、まだ多くの参加者が必要です。

一人も参加しない班があるなど、全体としての盛りあがりにはもう一歩といったところです。今年こそはと願っていましたが残念なことに窃盗事件が5月と7月、そして9月には車庫に止めておいた自動車の盗難が発生する等、予断を許さない状況にあります。私ども役員としても事件が発生しますと久喜警察署に犯人逮捕、パトロールの強化を訴える等の対策を講じていますが、戸締りや不審者をみかけたらすぐに110番通報をするよう皆さんにお願いする部分もあります。慌ただしい歳末を迎えますと、どうしても気持ちが緩みがちとなり火災の発生も多くなります。「歳末警戒」は、そういった気持ちに注意を喚起しあう重要な行事でもあります。

安全な街づくり、安心して住める街、閑静ななかにも会話が弾む心和む街を基本とした街づくりを目標に掲げ取り組んでいますが皆さんの協力と理解がなければできません。

今、必要なのはこのような取組に対し静観して見ているだけではなく積極的に参加し行動を起こして行くことではないでしょうか。生涯を共に過ごす街です。一日の仕事が終わった後の一時の時間を「歳末警戒」に向けて見ませんか。ニュータウン内の状況を知る良い機会でもあります。

実施内容については、下記のとおりですが、12月に入りましたら参加者を募ります。

特に班長さんは日程を空けておいて下さい。宜しくお願いします。

記

1. 実施日時 平成14年12月27日(金)・28日(土)・29日(日)の3日間  
午後8時30分から同9時30分までの約1時間です。
2. 集合場所 アメニティセンタープラザ(二丁目集会所)
3. その他 ①担当区域、班編成については当日発表します。  
②当日は「あま酒」を用意します。

## 《趣味のコーナー》

## ☆☆☆☆押花との出会い☆☆☆☆

押花教室 小松崎テイ子

“皆さん葛（くず）の花をご存知でしょうか。”

私は、押花を習い始めて間もない頃、思いがけない所で葛の花に出会いました。以前から見知ってはいましたが、あれほどたくさんの花が咲いている景色は初めてでした。工事現場のフェンスにからみついた葉の中から甘い香りが漂い、たくさんの花が咲いていたのです。その時の驚き、感激は忘れられません。暑い日差しの中で太いつるが伸び大きな葉が生い茂る。つるの先には光沢のある青緑色の葉が、所によっては黄金色に輝いています。そして葉の茂みの中では花が藤の花を逆さにしたように上を向いて甘い香りを放っていたのです。その時から葛は私にとって大好きな植物のひとつになりました、もちろん押花絵にし、その夏は葛、葛の花一色のシーズンでした。そんなことがあって、ますます、お花の美しい色をそのままにのこしておける押花に魅せられてしまいました。



今は、3丁目集会所で月二回、お花の大好きな仲間と植物談議に花を咲かせ押花絵を楽しんでいます。仲間が集まるとこんな会話が始められます。……春になると、「土手にもうイヌフグリが咲いてるわよ。」「コナラの木の新芽はキレイな色してるよ。」……夏になれば、「唐虫草が茂っている所見つけたわよ。」……秋になればなつたで、「花みずきの葉が、ナンキンハゼの葉が紅葉し始めたわね。」などなど。こんな調子で植物情報が飛び交います。押花を始めてからは、なにげなく見ていた植物を花はもちろん、葉の形、葉裏の色までよく観察するようになり楽しみも二倍、三倍になりました。

娘からの誕生日のプレゼントの花を記念に、散歩の途中で見つけたかわいい野草を並べて、我が庭で手をかけて育てたお気に入りのお花を、大事に押花にして、楽しんでいます。

花を愛し、自然に親しみ、押花を楽しむ。“押花に出会えてよかった。”

## 点 描

## ……CELEBRATION……

甲斐庸夫

米国フロリダ州のオーランドにはディズニーワールドがあり、マジックキングダム、アニマルキングダムなど4つのテーマパークが巨大な敷地にひろがっている。そのそばにディズニーが開発したCELEBRATIONと言う町がある。目標人口7000人、レストラン、ホテル、教会、映画館、病院、オフィスビルもあり職住近接そしてゴルフ場もある。町の真ん中に大きな池があり、無料で乗れるボートがあり、道には誰でも使える自転車もある。そして電動自動車が行き来する。メインストリートは椰子の並木で南国調のリゾート型の住宅地である。米国の新興住宅地は南向きは日当たりが良すぎてだめというのか、円形や蛇行した道によって、様々な形の家があり変化のある街並みだ。とにかく全体が広い。上空から見ると一目瞭然である。

街の入り口近くに大きな病院がある。そこにはアスレチックジムやプール、リハビリ施設が完備され、一日10ドルで時間制限なしに使用できる。ロードランナー、トレーニング機器は最新でコンピューター管理でそれぞれの体力に合わせて運動できる。至れり尽せりという感じである。

ゴルフ場と病院は羨ましいと思ったがその他はそうは思わなかった。何故かそれはプールがあろうが広かろうが手入れが掃除が大変と思った。自分の手の届く範囲というのと性分はどうしようもない。それと食事のことだ。レストランは量が多すぎるし、口に合わない。狭いながらも家庭菜園の新鮮な野菜での美味しい食事、ニュータウンの街並みがふと浮かんだら早く家にかえりたいと思った。



《コラム》

## “この町・この街”

松本智子

今年の夏は大変でした。ヤスデが大発生して、家の中にもどンドン侵入してきたから。ハチやムカデのように人を刺したりすることはないけど、たくさん這っているのを見るのは、正直なところとても気持ち悪くて、一日で殺虫スプレーを使い切ってしまったこともありました。

でも、それ以外では大いに虫たちと触れ合いを楽しんでいます。4才の娘と散歩をすれば、小さな虫たちにいつも出会います。アリの行列を追跡してみたり、赤トンボを指先にとまらせっこしてみたり。

ここ白岡ニュータウンに住む前は、蚊が一匹飛んでいるだけで泣いてこわがっていた娘でしたが、最近では大きなカマキリも平気でつかむまでになりました。家の庭で、赤ちゃんカマキリがたくさん生れてくるのを見たからかもしれません。

小さな虫たちの住みやすい環境は、人にとってもそうであるといえるのではないのでしょうか。この町で育つ子どもたちのために、そして未来の子どもたちのために、この自然を大切に残していきたいと強く感じています。

《若人コーナー》

## 【最近思ったこと】

高校二年生 田路真弓

私は、このニュータウンに住んでいて幸せだなあと 생각합니다。

それは先日、高校の友達と話をしているとき思ったのですが、夏休みに地域の盆踊り大会があっても、一緒に行くような友達が同じ地域にいないのでつまらない、ということを知りました。でも私は自治会の盆踊り大会に行けば、必ず多くの友達と会うことができます。同級生だけでなく、先輩や後輩もそれぞれの同級生がたくさん来ていて、まるで同窓会のように皆楽しそうに集まっています。

買い物に行くのにも、ちょっと出かけるのにも不便で、おしゃれなお店があるわけでもなく、鉄道も1線しか通っていないし、駅には快速電車も止まらないような所ですが、学校の行き帰りなど家から外へ出れば、ほとんど必ずと言っていいほど誰かに会います。会うのは仲の良い人達とばかりではないけれど、なんとなくうれしい気持ちになります。

前に出した友達の所は、JR宇都宮線だけでなく違う線もあって、たいてい皆そちらへ行ってしまい、駅で友達に会うことはあまりないということです。皆が皆そういう環境ではないと思いますが、友達の話と自分のいる環境を比べると、私はここに住んでいてよかったなあと 思いました。

というわけで、少し不便でも私にとってここは、すごく素敵なおところだと思う今日この頃です。

## 【ニュータウンに思うこと】

高校二年生 荻須文郎

私は高校生であるが、勉強する高校生とは違い、テニスにかかりつきりである。平日はもちろん、休日も朝から夜まで学校に通うことが多く、ニュータウンにいる時間は少ない。それでも街の風景を感じている。

朝、自転車で家々の周りや町並みを見ながら駅に向かう。空からは雀の声に混じってヒヨドリの声が当たり前のように聞こえてくる。柿が色づき始め、けやきも少し赤みを帯びた。そんな中、慌ただしく鞆を抱えて玄関から飛び出してくる大人や中学生を見る。ニュータウンは、相変わらず美しく、活気がある。それを、目と耳と膚で感じる事ができる。いい街である。

ニュータウンはずいぶん人が増えた。通勤電車を待つ人を見ればよく分かる。その割に駅前には寂しい気がする。また、人の増えた分、自然が少なくなったような気もする。

ここ数年、カブト虫やクワガタ虫などの昆虫が捕れなくなってきている。

白岡は、交通面ですぐれた所にあるにもかかわらず、自然が多く残ったいい町だと思う。できれば、これらのいい面を両立させながら更にのびしてもらいたい。一方では住民のニーズに応え、町を特徴のもった賑やかな所へとしてもらいたい。さらに大通りの並木を更に立派なものにし、電柱をなくしていくなど、町なみの特徴をもっと伸ばしてもらいたい。そして、誰もが言える白岡の特徴を作ってもらいたいと思う。

## 【 青 春 】

大学一年 金 森 雅 葉

私は白岡で育ち、白岡という地域が織り成す環境に温かく包まれながら今に至った。春には桜、夏には緑木、秋には巨峰・梨、冬には数回雪が降るといふ素晴らしい環境を備えた白岡。幼少の頃は近隣のご家庭とまくらを作ったりし、季節とともに私は色々な方たちと親睦を深めていた。最近の私の報告は、と言え四月から望んだ大学に合格し生き生きとしたスクールライフを満喫しているということであろうか。高校時代は目先のことで手一杯でやれ定期試験だ、やれ文化祭準備だと慌しかつたせいもあるが、大学では高校時代果せなかったことを思い切りやるということを念頭において生活をしている。

第一に挙げられるのが、社会勉強。主に四月から八月の間に異業種二種のアルバイトを経験した。一つは児童館での臨時職員、もう一つは、今は無きスマイルブックス新白岡店の店員を勤めていた。

学生には許される「甘え」というものが、社会では全く通用しないことがわかり背筋が寒くなった経験もした。学生の間は100点目指す姿勢で何事も取り組み、80点以上こなせばまあまあかなといったところがあるのに対し、アルバイトにおいては一度言われたことは最後までしっかり責任を持ち、結果百点が望ましいといった違いがあるように見受けられた。その大きな収穫は今でも考えさせられることが多い。生きた学習ができたこと感謝している。

第二に念頭に置いていることと言うと人間関係の拡大である。八月まで、アルバイトを経験したことにより、何もそこまで照準をお金を稼ぐことに置かなくても学生時代大切なことが他に何かあるはずと気づいた。それが友人を大切にすることだったり仲間と交流を深めることにあると私は考えた。

というわけで現在は、仲間と切磋琢磨するためにも立教大学体育会女子ソフトテニス部に在籍し、先輩との向き合い方、同輩、OG、OBとの向き合い方など人間関係について色々勉強させて頂いている。

最近ではパーソナルコンピューターの登場によりOG、OBさん方との連絡ツールはもっぱらメールやインターネットだが、最近では言葉を伝えることの難しさなどにも気づきだした。人間関係をよりよく築き上げることや、伝えたい言葉をきちんと相手に伝える能力を養うことが最近の目標と言えるだろう。最近の関心事は人付き合いにあると言っても過言ではない。これからも楽しく充実した学生生活を送りたいと考えている。

## 『リラックスできる住環境』

大学四年 麻 生 俊 幸

前号の「美しく年をとる街」を拝見し、我が家の入居当時と重ねあわせ、同じ思いを白岡ニュータウンに求め、住み始めた方が多いのだなと実感した。

私がこの街に来た当時、コンビニも無かったため、ずいぶん田舎だという印象を持っていた。しかし十数年たった現在、ニュータウン内にはコンビニがあり、スーパーもある。最低限の生活に必要な食や住の環境は整っていると見える。

私は学生という立場であるため、学校やバイトへの移動の際に都心を通る機会が多い。そのため、遊びや趣味の買い物は都心で済ませている。都心は自分がエンジョイやエキサイトする場である。一方、生活する場所というのはリラックスできる場所であって欲しいと思っている。そのため、私たち住民にとって本当の意味での住みやすさ、リラックスできるまちづくりというのが、ニュータウンのアイデンティティーになればと思う。

その内の1つに、街自体の外観というファクターがある。その点においては、公園等緑が多く整備されており過ごしやすい環境である。では、さらに実際に暮らす側の視点からはどうだろうか。これから訪れる高齢化社会を考えると、ユニバーサルデザインを念頭においたバリアフリー仕様を取り入れるなど、まちづくりのあり方も変わってこなくてはならないと思う。例えば、緑道1つを取り上げても、車椅子を使用する人の立場にたてば、その利用価値は、あまり高いものとは言えない。なぜなら、緑道の延長上と公道の交差点には横断歩道もなく、自転車が通り抜け出来ないようにするための柱(実際、自転車は容易に通り抜け可)があるため、車椅子で入ることは不可能なのである。つまり、造る側と使う側の意識のギャップを無くさなくてはいけないということだ。たとえ歩きやすい広い歩道があっても、その歩道が駐輪場化してしまえば、小さい子供や老人にとっては、ケガの原因になる等リスクの大きなものになり、むしろそれは逆効果となる場合もあるのである。本当の住みやすさであったり、これからの時代を視野に入れたまちづくりを考えるなら、そのような小さなギャップを埋めることが大切なのではと思う。

また、一方コミュニケーションという視点から考えると、ニュータウンは自治会活動も活発で、いわゆる寄り合い世帯が多い割に、子供からお年寄りまで幅広い年代での交流やイベントが充実している。こういった様々なコミュニティ活動に積極的に関わることが、世代間ギャップを埋めたり、白岡ニュータウンへの愛着心につながるのではないかと思う。

白岡ニュータウンのアイデンティティーとして求められるものは様々だと思うが、私も含め、ここに住む人全てが、「我が故郷」と誇れるようなリラックスできるまちづくりを期待している。

《子供作品コーナー》

【修学旅行】

6年生 村井麻衣子

私達、白岡東小学校の六年生は、10月25・26日と福島県会津若松・あぶくま洞方面に行って来ました。1日目は、6時40分の集合で出発の会をやって7時に出発しました。4時間ぐらいのバスの中では、レク係が考えた、ビンゴゲーム・時間当てゲーム・クイズなどをやりました。時間当てゲームでは、飯盛山に到着する時間を当てるゲームで、わたしは11時40分と書いたらみごとにはずれて10時40分に飯盛山に到着しました。その後、昼食を食べてから、グループごとに飯盛山を見て目的地にバスで行きました。コース別というのは、Aが武家屋敷、Bが武家屋敷と県立博物館と徒歩で市内めぐり、Cが日新館、ABCすべての最終目的地は鶴ヶ城でAとCは、飯盛山を見学してからでしたが、飯盛山では白虎隊のお墓と白虎隊が通ってきた洞くつを見ました。次に日新館では弓や茶道をやりました。2つともとっても難しかったです。鶴ヶ城では、天守閣を登りました。天文台から磐梯山がとてもきれいに見えました。その後、写真をとって、ホテルに行きました。ホテルでその夜、赤ベコ作りをしました。むずかしかったけど楽しかったです。2日目は五色沼ハイキングは、ちょっとつかれたけれど、紅葉がとてもきれいだった。次のあぶくま洞は、3回ほど頭をぶつけていたかったけど、自然にこんな物ができるなんてすごいと思いました。その後、昼食を食べてバスに乗り、東小に4時40分ごろ到着、とっても楽しかったです。

【囲碁】

中学2年生 小林大介

ぼくは、今囲碁にはまっています。囲碁はとてもおもしろく、パソコンなどを使いインターネットなどでも、やっています。

囲碁を始める前は、おじいさんとかがやっている古くさいゲームだ、と思っていました。しかし、友達が囲碁を始めようとしているのを聞いて、ぼくもやってみたくなりました。その時も、あまりおもしろそうには感じませんでした。

でも、やってみると、おもしろくて、おもしろくて、何回も打ちたくてしょうがないという気持ちになりました。最近では、友達に教えたりして、囲碁友達を増しています。

それから、最近では『ヒカルの碁』というアニメがはやっています。マンガもあります。ぜひ見てみてください。

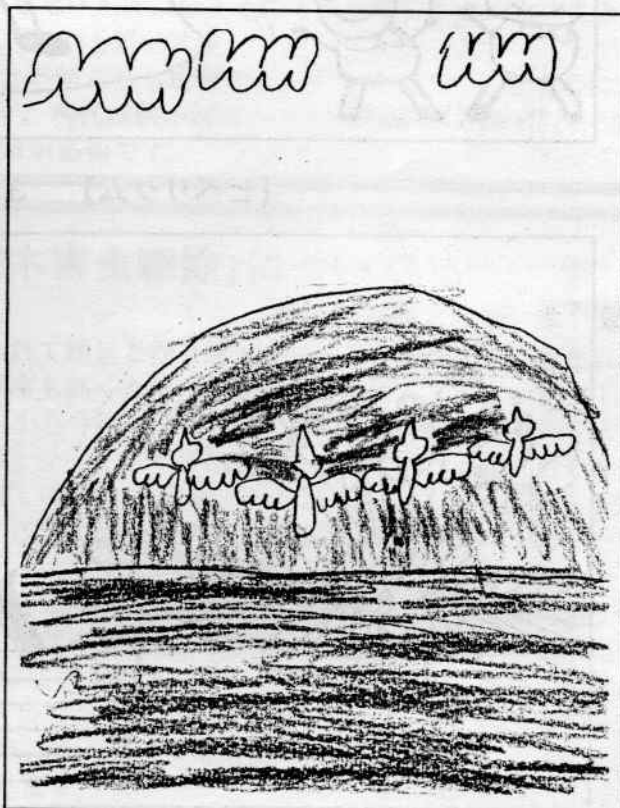
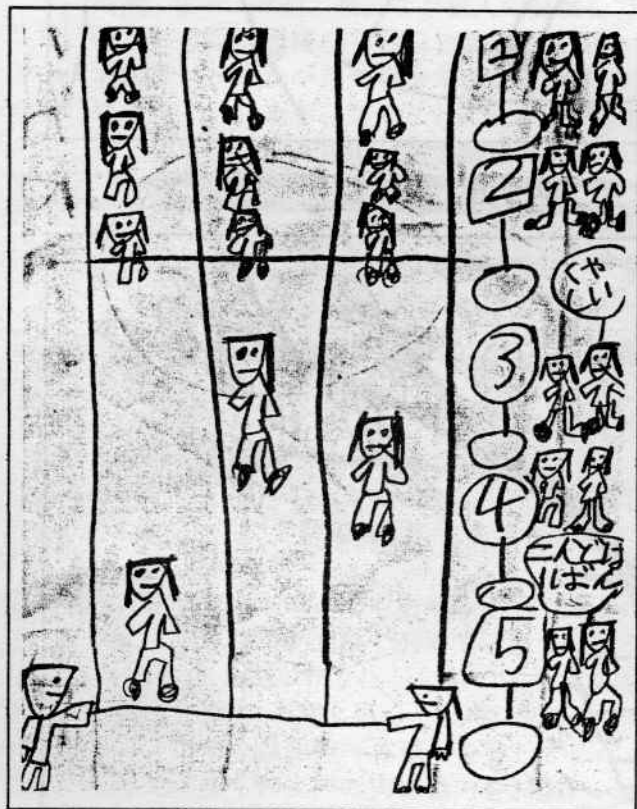
囲碁は、やると頭が良くなると言われていています。それは、普段あまり使わない右脳を使って考えるからです。『ヒカルの碁』のえいきょうで囲碁をやる人が増えています。ぜひみなさんもやってください。

【たのしいうんどうかい】

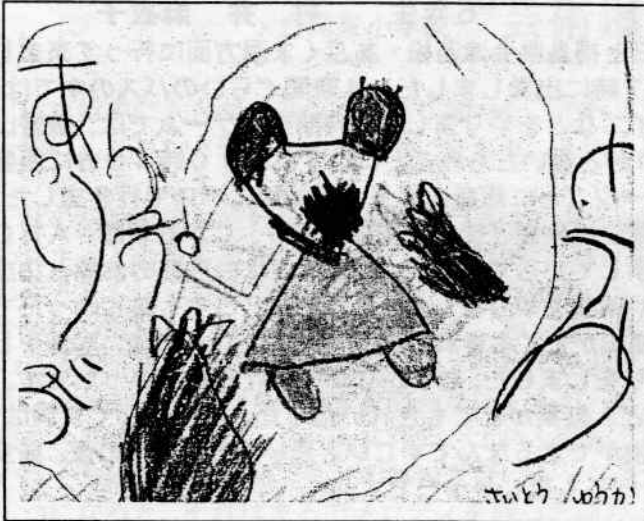
1年生 小泉 暁子

【ゆうやけの日】

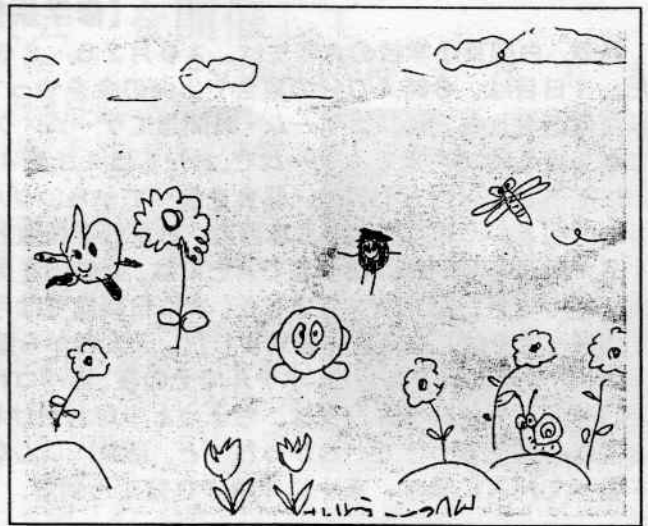
2年生 丸 森 あきひこ



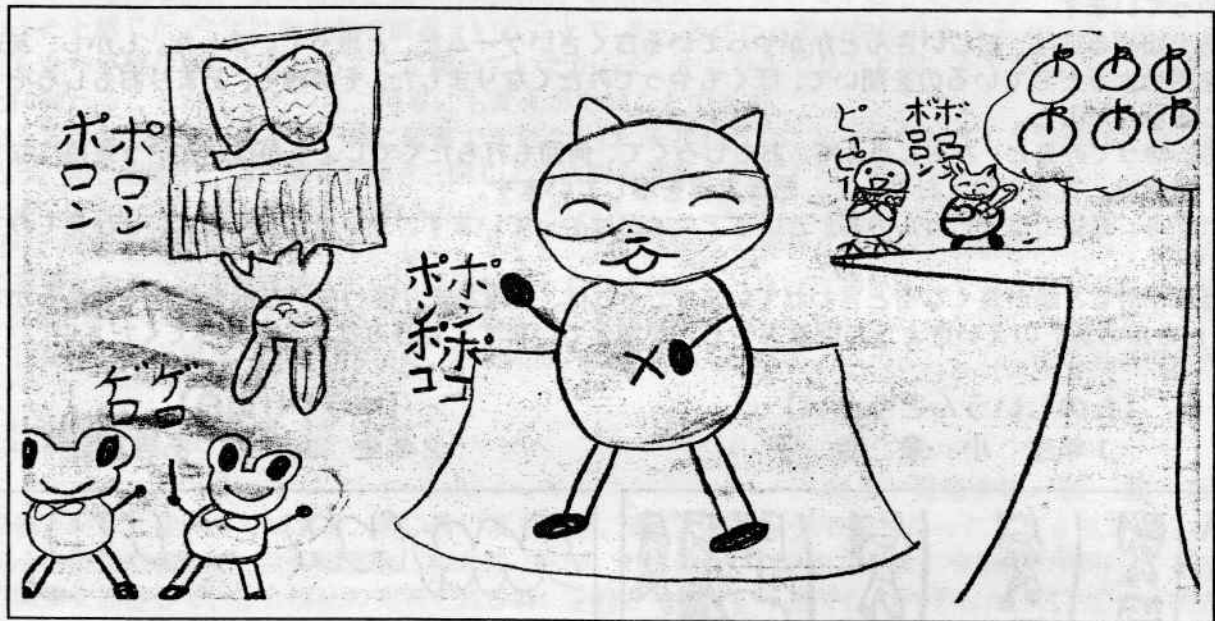
【うさぎ】 幼稚園 斉藤友香



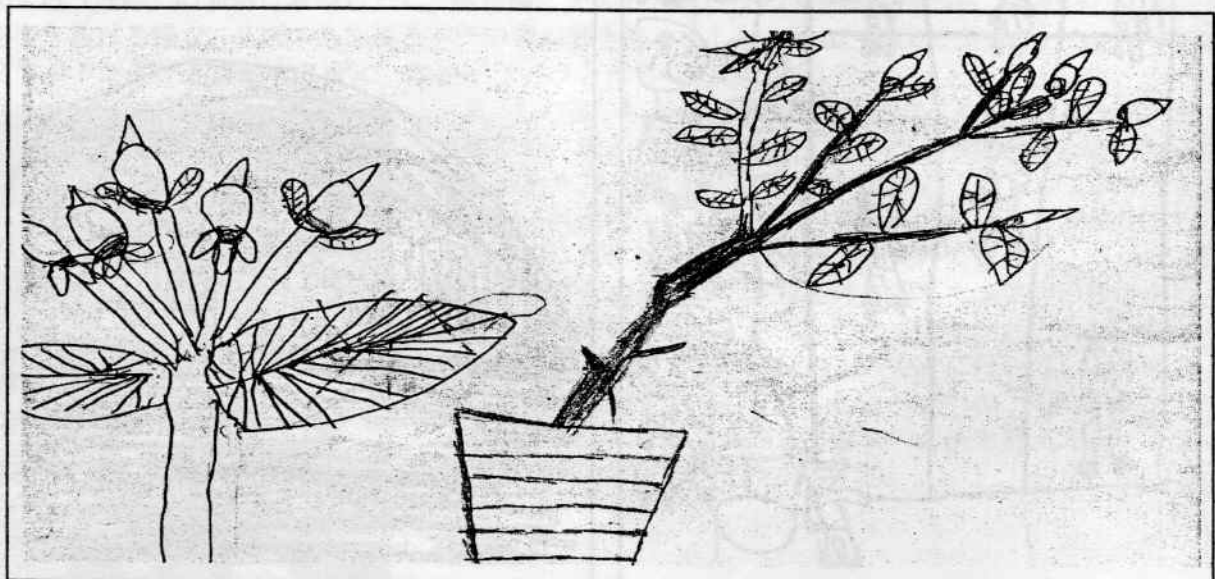
【みんな友だち】 1年生 斉藤康平



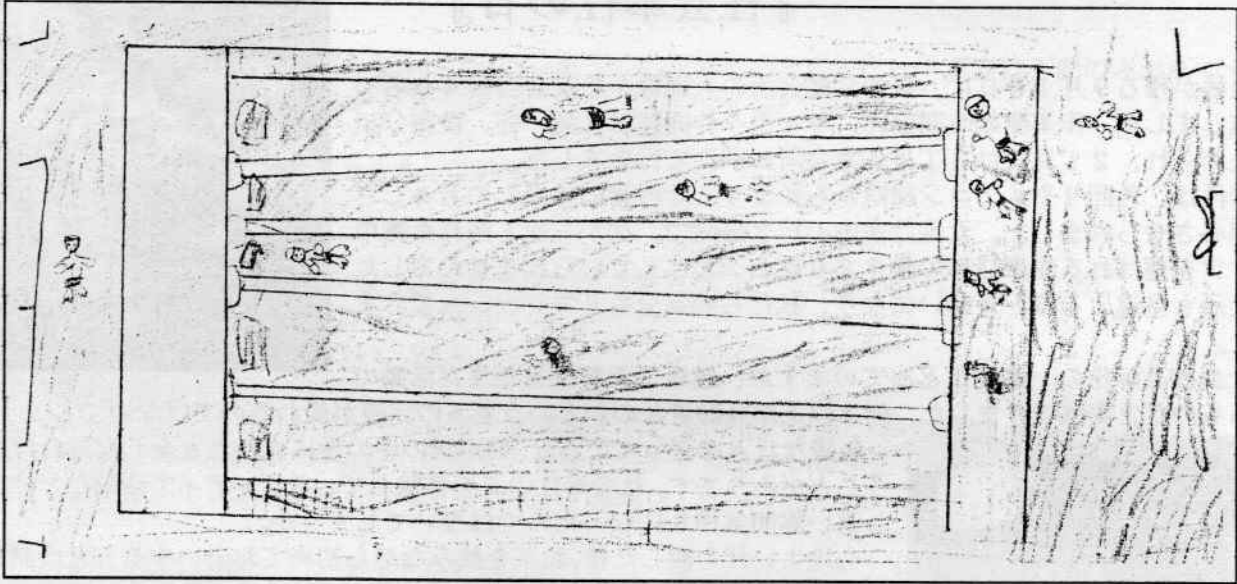
【森のおんがくかい】 2年生 今川智沙未



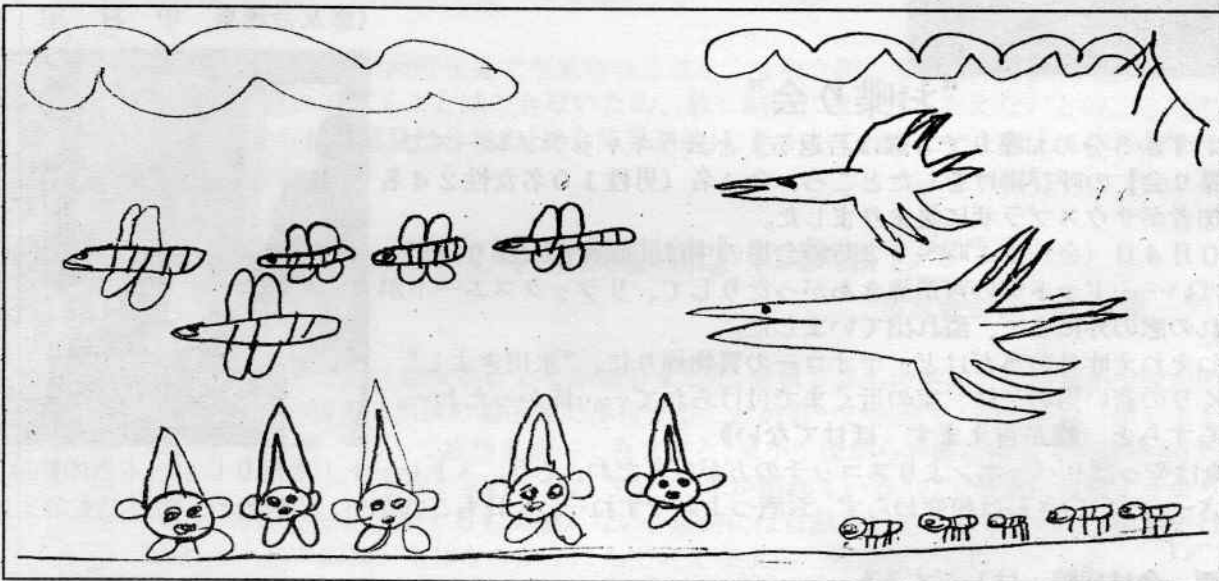
【ヒペリクム】 3年生 平山晶太



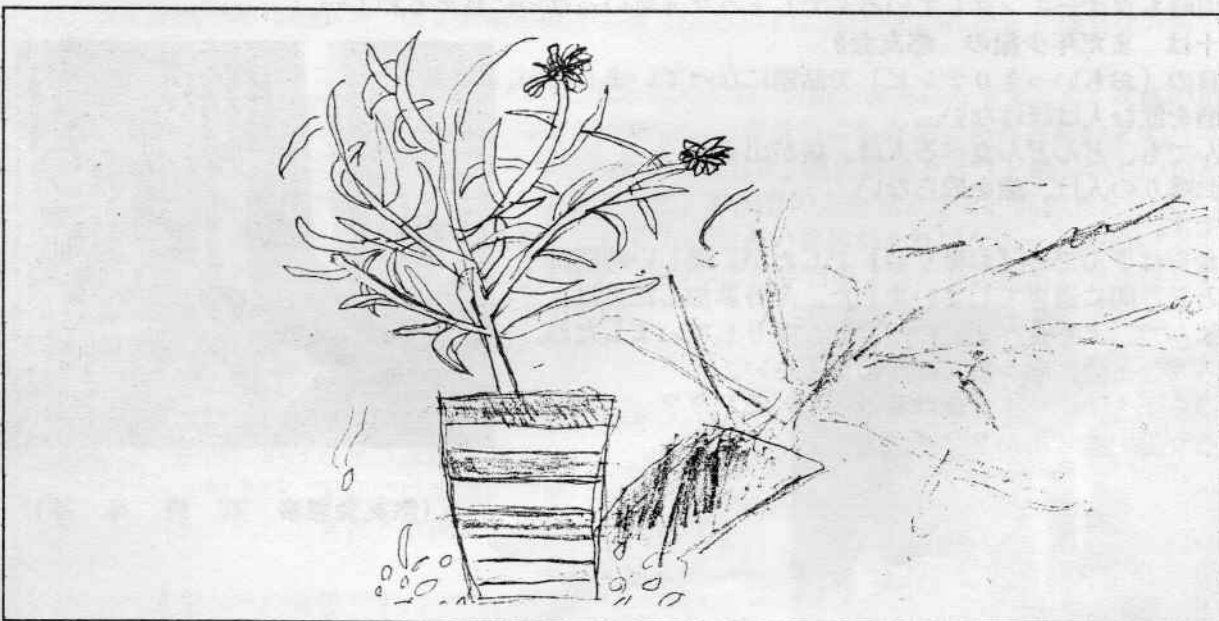
【プール】 4年生 小林 正明



【みんなきょうだい】 4年生 斉藤 大



【クジャクソウ】 5年生 平山 貴一



## 《悠友会コーナー》

## 『社会奉仕の日』



残暑が残る9月18日に、自治会集会所の大掃除を悠友会会員40名で実施しました。作業開始時間前に、早々集う仲間達は元気一杯。役割分担が決められ、2丁目又は3丁目各集会所に別れて行きました。

男性は、外回りやエアコン掃除から始まり、その身のこなしの若々しさに感心させられました。女性は室内の拭き掃除で、次から次と汚れた雑巾バケツを運ばれる先輩諸姉の働きぶりにおつとりしてられませんでした。集会所も見違えるほどきれいになり、私たちの気分もリフレッシュできました。

社会は高齢化の一途をたどっていますが、健康であればまだまだ活動できるものだと実感できました。何才以上が高齢者なのかという老人の定義が変わるのではないのでしょうか。

気儘な日々を送っていると、何か世の中の役に立つことをしなければと思うことがあります。社会奉仕の日を体験して、ボランティア活動などに参加し易い雰囲気作りになったのではないのでしょうか。

心地よい汗を流した後、お茶を飲みながら初めてお会いする方と会話が生まれ、ほのぼのとした一時を持ってました。第二の人生を、助け合い励まし合っ

(悠友会理事 中村 瑞枝)



## “お喋り会”

『わずか5分のお喋りで3歳は若返る』と云うキャッチフレーズで【お喋り会】の呼び掛けをしたところ、34名（男性10名女性24名）の参加者がサウスプラザに集まりました。

10月4日（金）11時～13時の会場の中は、賑やかな喋り声がいっぱい……ドット笑い声が沸きあがったりして、リラックスムードが秋晴れの窓の外にまで、溢れ出ていました。

「ねえねえ昨日の事だけど、ヤオコーの買物帰りに、“氷川きよし”そっくりの若い男の子に、家の近くまで付けられて……怖かったわー。」

《すらすらと 嘘が言えます ぼけてない》

「俺はやっぱりパーボンよりスコッチの方が好きだね。そう、ストレート！水割りじゃー本当の味は分らないさー。」「〇〇さんは相変わらず、お酒つよいですねー。今日もこれから、二次会・三次会ですか？」「……。」

《昔酒 今は病院 はしごする》

「そのブラウス中々似合ってるよ。何時も若々しいねー。」「あら、うまいこと云って……。あなただつて……何時もウオーキングしているんでしょう？元気いっぱいに見えるわよー。」

《七十は まだ年少組の 悠友会》

先日の【おもいっきりテレビ】で話題になっていましたが、

1. 酒を飲む人はぼけない。
2. んでも、どんどん食べる人は、皺が出来ない。
3. お喋りの人は、歳を取らない。

そうです。

昼食をはさんでの【お喋り会】でしたが、楽しい時間はあつと云う間に過ぎてしまいました。今日参加した方は、よく飲んで、よく食べて、いっぱいお喋りしていましたね。だからぜひ、鏡に向かって確かめて下さい。

……ほら!!!……18歳は若返っている???

……そう思いませんか???



(悠友会理事 石野 尋雄)

## 新白岡悠友会 『白岡高校「ありの実祭」』に出展

悠友会宛に白岡高校から「ありの実祭」へ出展依頼が来ると秋の到来を知らされます。秋は、静けさと安らぎ、過ぎた日々の癒やしとこれからの日々を迎えるための充電の時。秋は芸術の季節。芸術は人の心を豊かにします。上野の森は芸術に惹かれる人々で賑わい、新鮮な刺激を受け一層創作意欲を掻き立てられます。

9月28日(土)白岡高校「ありの実祭」開催。午前11時～午後3時過ぎまで高校の一室で悠友会による芸術作品の展示会。出展作品は、短歌・書・蹴鞠・折紙・ペン画・油彩画・水彩画・木版画・竹人形・木目込み人形・お手玉人形・編物など。

悪天候にも拘らずご来場鑑賞いただいた大勢の皆様、出展して下さった方々、会場担当の先生方と可愛い女生徒さん、その他ご協力くださった関係者の皆様に、文化部一同衷心より感謝しています。

来年の「ありの実祭」もよろしくお祈りします。

(悠友会理事 吉原千秋)



※新白岡悠友会としては、9月10日に(火)第二回白岡東小学校校内除草作業に30名の参加、10月2日(火)白岡高校との合同による町内清掃作業に35名参加し、社会奉仕の一環として作業を行いました。なお、10月26日(土)に予定されていた白岡町老人クラブ連合会主催の運動会は生憎の雨天により中止になりました。(参加予定者:23名でした)

(新白岡悠友会 総務・広報部)

## 餅つき実演販売会&青空市のご案内

開催日:2002年12月8日(日)AM9時~PM3時

ここ数年日本経済の停滞が続いています。来年こそ景気回復の年になって欲しいものです。さて、当自治会では夏の盆踊りに匹敵する行事である、【餅つき実演販売会&青空市】を下記の要項で開催します。不景気を吹き飛ばすべく明るい楽しいイベントにしたいと思っておりますので積極的にご参加戴きたくよろしくお祈りします。なお、開催にあたり全役員、全班長さんらの絶大なるご協力をお願いします。(別途依頼)

総務部

記

### 【行事予告】

#### ◎センタープラザにおいて

- ★趣味の作品展示会  
(ジャンルは何でもOK)
- ★手作り作品販売(屋内)

#### ◎サウスプラザにおいて

- ★餅つき実演・販売
- ★産地直送りんご販売
- ★甘酒サービス
- ★マカロニX'masリース講習
- ★演奏会(コーラス等)
- ★フリーマーケット

### 【出展・出店の参加者募集】

本行事の出展・出店に参加される方は所定の用紙(事務局にて保管)にご記入のうえ、自治会事務局宛11月15日(金)迄にお申出願願います。

- 趣味の作品展示会: 絵画・版画・書道・短歌・写真・陶芸・ステンドグラス・生け花・盆栽・各種手芸品などを展示される方
- 手作り作品販売会: 趣味の手作り作品等を販売ご希望の方
- フリーマーケット: 家庭の在庫品などを販売ご希望の方

## “我が故郷”

3-7-17 長田英二

暗い話題が多い最近の日本でノーベル賞のダブル受賞は久々の明るいニュース。特にサラリーマン研究者である田中耕一さんの場合、いつもの日本人ノーベル賞発表と違って、何かほほえましい感じがしたのは私だけではなかったと思う。

10月9日夜、帰宅後、テレビでニュースを見ていた私はインタビューに答える田中さんの言葉（イントネーション）から、もしかして北陸の出身ではないかなと思っていたところ、田中さんの母親が戸惑いながら話している言葉を聞いて間違いなく富山だと確信した。

翌日、勤め先で富山県出身の同僚と、盛り上がっていたところ社内の富山県人会（単なる飲み会です）をこれから“ノーベル会”と呼ぼうとの提案にチョット悪乗りが過ぎるかなと思ったが、「これも祝福の表現の一つ」として暫く使わせてもらうつもりだ。

富山県の方で比較的知られている（と勝手に思っている）のに“キトキト”がある。“キトキトな魚”というような使い方をするが、新鮮で元気が良い獲れたての魚の意味である。“富山”の名所名物いろいろあるが、やはり一番は新鮮でおいしい魚がお勧めである。

一年中、キトキトな魚は獲れるがこれから冬にむかっけての寒ブリは絶品である。又、春のおとずれとともに現れるホタルイカ、珍味ではあるがゆでたてを酢味噌で食べるのが私は一番好きである。

私が生まれ育った魚津市は蟹気楼で有名(?)だが残念なことに未だ見た事がない。科学的な理由はさておき、その幻想的な現象をぜひ自分の目で見たいと思っている。

### 《編集後記》

春には目映いばかりの新緑で道行く人々の心を癒し、感動を与えてくれた樺通りも、夏の強い日差しで自然が色づき始めました。今年も日本列島を南下してきた紅葉前線。落葉が晩秋の風に乗って空に舞い、蝶の乱舞を思わせる光景が広がるのも真近です。落葉の絨毛を踏み締め、落葉と戯れながら元気に登下校する子供さん達の姿を見てみるとお掃除をしてしまうのがちょっと可哀相な気もしますが、でもお掃除をしなければと思っています。

( 福田 )

防災訓練で、広報伝達の為、拡声器を手にご町内をお騒がせして回った。子供の時分、人前で話すのは苦手だった。カクセイの感あり。公衆の面前に駄文をさらすのも今回初めての経験。コウホウ支援になったのだろうか。

“へん”な きじかき

“しゅう”たい さらし

“こう”かい します

“き”も めいる。

( 早川 )

空き巣、車の盗難と、ニュータウンで事件が続いています。以前住んでいた所で、車のタイヤが盗まれたことがあります、とても人ごとではありません。我が家も門灯の自動点滅機を取りつけることにしました。少しでも防犯の役に立ってくれば……と祈る思いです。

これから日が暮れるのも早くなり、年末に向けてひったくりなどの事件も多くなる時期です。被害にあわないよう気を引き締めたいものです。

( 松本 )

早いもので今年も残すところあと2ヶ月となりました。世の中は相変わらず不景気で、多くの人々が将来の生活設計に漠然とした不安を抱いて日々を過ごしている今日この頃。

そんな時であればこそ、地域住民が日常のさまざまな局面で助け合い、支えあうことができれば、少しずつではあっても明るさを取り戻せるのではないかと思います。「自治会だより」がその一助となれば、と期待しております。

( 田村 )

北朝鮮拉致被害者生存者5名の帰国に関する情報が毎日、テレビ・新聞ニュースを独占しています。本人5名の心がゆれ動き、その顔の表情に日毎に変化している様子が伺えます。24年前に発生した事件とは言え、憤りを感じると共に、親子の絆の強さを再認識させられました。

自治会だよりも今年最後の号になりました。11月晩秋号の編集を無事終えることが出来ましたこと、関係者各位に心からお礼を申し上げます。“早川様の編集後記”の詩は、広報部全員の代弁かと思えます。がしかし、皆様頑張っています。自治会会員各位には年末も無事に過ぎされ、良き新年をお迎えになられます様、心からご祈念致します。

( 岡本 )